

いいくらじんじゃ ばじょうはい
飯倉神社の馬上杯



川
辺

南九州市川辺町宮の飯倉神社の宝物として伝わったものです。飯倉神社には、江戸時代後期に編さんされた『川辺名勝誌』に記載されている宝物目録と合致するものが多く現存しています。

この2つの陶磁器は、14世紀の中国・元の時代に景德鎮で作られた青白磁製の「馬上杯」です。ビーズひも状の模様の縁取りや透かし彫りの装飾が特徴で、日本国内ではほかに見つかっていません。

このほか、同神社の宝物には、室町時代の川辺領主の島津久世が奉納したとされる琵琶や、豊臣秀吉によって坊津に流された前左大臣の近衛信尹が奉納したとされる青磁水差、戦国時代に島津忠良（日新公）が奉納したとされる鎌などが伝わっています。

現、川辺町を中心とする旧川辺郡は、坊津や郡内の島々を通して交易の拠点となり栄えていた一方、支配をめぐる戦乱が行われた地域でした。これらの宝物は、中世～近世の旧川辺郡の歴史と、飯倉神社が重要な存在として信仰されていたことを伝える貴重な資料です。